土質ボーリング柱状図（標準貫入試験）

調　査　名　本谷地区　測量地質調査設計業務委託（急傾斜地崩壊対策・交付金）

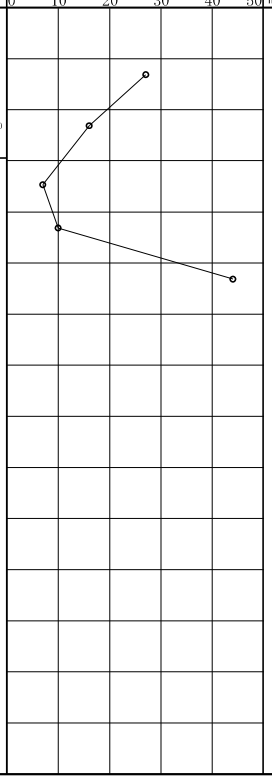
事業名 または 工事名

調査目的及び調査対象　その他 構造物基礎

ボーリング名	Bor.No.1	**調査位置**	広島県庄原市口和町金田			**北緯**	34° 52′ 3.0770″
発注機関	広島県北部建設事務所庄原支所			**調査期間**	2022年 10月 18日 ～ 2022年 10月 20日	**東経**	132° 54′ 11.7932″
調査業者名		**主任技師**		**現場代理人**		**コア鑑定者**	**ボーリング責任者**
孔口標高	T.P. 224.76m	**角度**	180° 上 90° 下 0° 0°	**方位**	北 0° 270° 西 90° 東 180° 南	**地盤勾配**	水平0° 鉛直 90° 39°
総削孔長	8.00m	**使用機種**	**試錐機** 東邦D1-C	**エンジン**	ヤンマーNDF-13	**ポンプ**	東邦BG-3C

標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	現場土質名（模様）	現場土質名	地盤材料の工学的分類	色調	相対密度	相対稠度	地質時代名	記事	孔内水位／測定月日
	224.16	0.60		シルト質砂		暗茶				本根多く含む有機質土。細砂を主体とし，シルト分少量含有。	
1 2 3 4	220.26	4.50		砂礫		暗茶灰	rd3 rd2			岸錐堆積物。径10～20mmの亜角礫主体で砂分を少量混入。全体的に不均質である。礫種は花崗岩質が多く，その他砂岩や泥岩などが混じる。コア長1.00m未満の硬質な玉石が点在。深度3.10m以深，含水比高くマトリックスが粘性上。	10/20 2.95
5	219.16	5.60		強風化流紋岩		暗褐灰				流紋岩強風化土（礫質土）。風化著しく十砂状～礫状で採取。礫は流紋岩の組織を残す。深度5.00m貫入試料，含水多い。	
6	218.76	6.00		風化流紋岩		暗青灰					
7 8	216.76	8.00		流紋岩		暗青灰				流紋岩。軟岩I。CL級。斑状組織で，鉱物の斑晶が少ない。コアは岩片状で採取。コア肌は粗く割れ目沿いに土砂流入。ハンマー打撃で容易に砕ける程度。 流紋岩。軟岩II。（CM級～中硬岩）。斑状組織を有し，1mm程度の石英や長石の斑晶が見られる。コア長10cm程度の棒状コア主体。コア肌は概ね滑らか。ハンマーの打撃で鈍い金属音がする。	

標準貫入試験



N値	深度 (m)	100mmごとの打撃回数 0～100	100～200	200～300	打撃ごとの貫入量	50回の貫入量	自沈時の貫入量
27	1.15 / 1.45	10	7	10	27/300		
16	2.15 / 2.45	4	5	7	16/300		
7	3.30 / 3.60	2	2	3	7/300		
10	4.15 / 4.45	4	3	3	10/300		
44	5.15 / 5.45	20	17	7	44/300		

試料採取 深度 (m)	試料番号	採取方法	室内試験	原位置試験	削孔月日
1.15 / 1.45	P1-1	⊖			
2.15 / 2.45	P1-2	⊖			
3.30 / 3.60	P1-3	⊖			10/19
4.15 / 4.45	P1-4	⊖			
5.15 / 5.45	P1-5	⊖			10/20